

# むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第8回

## 国道10号線 六地藏塔めぐり



### 六

道という言葉をご存じでしょうか。それは、地獄道・

餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道の6種類の世界を指し、人は生前の行いの結果によりいずれかに行くと言われていました。その六道での苦しみを六地藏様が救済するという考えがあり、人々は死者を救済するために6体の地藏菩薩を並べて祀り、広く信仰してきました。左の画像は六地藏塔と呼ばれ、龕部六面に地藏菩薩が刻まれているのが特徴です。



光神

曾於市には江戸時代の興味深い3基の六地藏塔（いずれも市指定）が国道10号線沿いに揃っています。まず末吉市街地から県道501号を福山方面に進むと国道10号線（光神山）に突き当たります。そのすぐ近くの山王神社敷地内に六地藏塔があります。寛文9年（一六六九）

に庚申講衆が建てたもので、明治の廃仏毀釈の影響も受けず当時のままの状態が残されており、まさにお手本のような六地藏塔です。

次に、光神から西に少し進んだ柵木の阿弥陀堂敷地内に六地藏塔があります。享保10年（一七二五）に湯浅氏と末次氏が先祖供養のために建てたものですが、よく見ると変わっています。通常、龕部には一面のみ地藏で、他の五面には種子（梵字）が刻まれています。最後に、柵木から東に進み、末吉財部インターチェンジを過ぎた



ここで紹介した他にも、市内にはまだまだ多くの六地藏塔があります。

内村・大路（末吉）・川内（末吉）・新地・橋野・笠木・川久保・川路山・下須田木・中須田木（大隅郷土館にあり）・元八幡・別府【石室型】



財部側の通山公民館敷地内にあります。これは明暦元年（一六五五）、庚申講衆により造られたものです。が、何と龕部全面に種子（梵字）が刻された非常に珍しいものです。一般的な六地藏と、種子だけの六地藏、その中間にある六地藏と形態比較の上からも大変貴重なもので一見の価値があります。この機会に六地藏塔をじっくり眺め、当時の人々が石に込めた思いを感じてみるのもいかがでしょうか。